

「つなぎ手」としての社会教育行政



特定非営利活動法人ふくおかNPOセンター
代表 古賀桃子

1、「共益」 プラス 「公益」の推進役として

- ・公益的＝問題解決型 例：協働事業、慈善活動
- ・共益的＝自己実現型 例：公民館の趣味サークル

終戦～経済成長期 …… 「共益」の推進役（教育機会の充実）



今日 …… + 「公益」活動の促進役 例：人財育成事業

2、「つなぐ」にはさまざまな場面が

一対一

- ・個人～団体
- ・個人～個人
- ・団体～団体

多対多

- ・MSP 例：地域円卓会議、NPOどこどこプロジェクト、公民館じょいんとPJ

3、「つなぐ」に必要なこと

- 企画力：6W3H → 映像のようにクッキリと理解可能に
- 会議力：ファシリテーション、ファシリテーショングラフィック
- 資金力：いくら・どれぐらいを、リアルに見積もる
- 提案力：小学校5年生レベルの言語で、分かりやすく
- 情報力：事例情報やつながりのストック
- 笑顔力：仲間づくり + 窮地の潤滑油
- 段取力：時間こそ資源

★これらを学べる場づくりも大事

4、ポイント@現場

- ゴールのイメージを具体的に（いつまでに、どれぐらい）
- 敵は庁内にあり（庁内協働こそハードル）
- P D **C** **A**（ふりかえりなくしてステップアップなし）

5、ポイント@現場の側面支援者（都道府県）

- 市町村の社会教育行政担当部署との積極的なかわり（とにかく出向く）
- コミュニケーション支援（特に庁内連携を要する場合）
- 事業化を促すインセンティブ（¥）